

「とくに、外気功とスピリチュアリティの関連について」

阿岸鉄三

東京女子医科大学名誉教授

医療におけるスピリチュアリティが世間の関心を集めるようになったのは、とくに、1998年にWHO憲章の健康定義にスピリチュアルな観点を盛り込む議論があったからであろう。スピリチュアリティを、言語をもって説明することは難しい。さらに、医療における宗教性との相同性・相異性を説明するのも難問である。心で感じるものだからである。しかし、いろいろの説明がある中で、基本的に、「いのちの尊さ」を感じるとすることが、共通するようである。

近年、スピリチュアリティは、キリスト教圏では、確立された制度的宗教とは、次第に、分別される傾向にあり、ニューエイジ運動・思想との関連で理解されることが一般的になりつつある。わが国では、制度化されていない広義の宗教とされる固有の古神道などの霊魂性とかかわるスピリチュアリティは、普段は深層に潜んでいるのに、ときに、表層に現われる。宗教性のインフラストラクチャにスピリチュアリティを認めるモデルは、人類に共通して妥当すると考える。わが国において外気功・手かざしなどと呼ばれる手技が、欧米ではスピリチュアルヒーリング、サイキックヒーリングなどと呼ばれるものに、ほぼ匹敵することに興味を覚える。ここで、ヒーリングは、人間であるヒーラーの直接的作用ではなく、活性化・賦活化作用と考える。ヒーリングは、自発的・自動的と理解されているからである。外気功は外面的・身体的現象として、被験者に不随意運動を誘発しながら、副交感神経優位の状況を作り出すことが知られているが、同時に、内面的・精神的現象として、先に示したスピリチュアリティの発動として知られている心的状況に、完全に同じでなくても、酷似の状況をも発動する。